資料 特－８ 世界自然遺産に登録されている原生的な天然林

知床森林生態系保護地域
（北海道斜里町）

白神山地のブナ林
（秋田県藤里町）

小笠原諸島森林生態系保護地域
（東京都小笠原村）

ヤクスギの天然林
（鹿児島県屋久島町）

やんばる森林生態系保護地域
（沖縄県国頭村）

西表島森林生態系保護地域
（沖縄県竹富町）

事例 特－１ 「林業立村」100年の村がつくる多様なモザイク林相

宮崎県諸塚村は、山間部に位置し平地が少なく、森林率が９割を超える土地柄から、「林業立村」をスローガンに、林業やしいたけ栽培、畜産等を組み合わせる複合経営を行いながら、森林と共生してきた。このような山間地の農林業複合の取組等が評価され、平成27(2015)年には、周辺の４町村(高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、椎葉村)と共に、世界農業遺産にも認定されている。

戦後の拡大造林期には、全国的にスギ、ヒノキの一斉林[注1]が造成される中で、針葉樹一斉林ではなく、適地適木を旨として、針葉樹と広葉樹を混植する施策をとり、用材生産のための針葉樹林、しいたけ栽培用原木の生産のための落葉広葉樹林、天然生林として保全管理される常緑の照葉樹林がモザイク状に配置されている。

林業やしいたけ栽培等が長きにわたり営まれてきた結果として生み出されたモザイク林相は、四季折々の美しい景観を形成するとともに、大面積の画一的な人工林と比べ、植物種の多様度は高く[注2]、生物多様性にも優れた森林となっている。

針葉樹・広葉樹が混交するモザイク林相

注１：同一樹種かつ同一年齢の林木で構成される森林。同齢単純林も同義。
２：柿澤宏昭ら編「保持林業―木を伐りながら生き物を守る」(2018)

(森林における種レベルの多様性)

様々な動植物等の種が存在するためには、それらの種の生育・生息が可能となる多様な森林環境が必要である。数十年以上という長期間にわたる森林の発達段階は、林分成立段階、若齢段階、成熟段階、老齢段階に分けられる。このような森林の発達の過程で草本、